

ハワイ大学マノア校図書館訪問記

木越 みち

12月1日～7日、山口大学SD(スタッフディベロップメント)研修でハワイ大学を訪れ、図書館の見学及び職員へのインタビューを行いました。簡単にではありますがここにその内容を報告させて頂きたいと思います。

私が訪れたハワイ大学マノア校には Hamilton Library と Sinclair Library という 2 つの図書館があります。本館にあたる Hamilton Library は蔵書数が約 320 万点、Sinclair Library (組織的には Hamilton Library のサービス部門に属する)は DVD、ビデオ、CD などの AV コレクションを中心に資料約 10 万点といずれも規模の大きな図書館でした。

この報告では Hamilton Library を中心に述べたいと思います。館内で印象的だったのは、貸出返却カウンター、レファレンスカウンターとは別に Business Office という窓口があり、延滞料金の徴収や学外者への図書館利用カードの販売(年間\$65)、コピーカードの販売をしていたことです。コピーカードはコピー機以外に館内にあるプリンターやマイクロリーダー(いずれも有料)でも共通して使用でき、利用者にとって便利だと思いました。



レファレンスカウンター
(1Fの中央に位置し質問に訪れる利用者も多い)

図書の修理工房があることもこの図書館の大きな特徴です。ここでは傷んだ図書の修理だけでなく酸化した資料を専用の脱酸性装置で中和したり、中性紙の保存箱を作ったり、資料の保存に関する仕事を専門にしています。日本から取り寄せた和本のコピーもここで和綴じにされて書架に並んでいました。アメリカでもこのような修理工房を持っている図書館は少ないそうです。



修理工房の様子

館内では所蔵資料の展示も行われていました。定期的に展示替えが行われ、図書館独自でテーマを決めることもあれば、学内で行われる講演会等に合わせて関連資料を展示することもあるそうです。前回行われた日本関連の貴重資料の展示では前述の修理工房での資料補修の様子もパネル展示し、資料保存のための寄付を募ったそうです。資料の展示が図書館活動の広報の役割も果たしており、おもしろく感じました。

Student Assistant と呼ばれる学生アルバイトが大勢いたことも印象的でした。例えば Hamilton Library のサービス部門では職員 16 人に対して学生アルバイトが 80 人おり、カウンター業務や図書の配架、利用者からの質問への対応など様々な仕事をしていました。彼らをマ

ネージメントすることも図書館員の大きな仕事の一つです。話は少しそれますが、ハワイ大学では図書館以外に施設や大学事務などでも学生アルバイトが大勢働いています。学生は大学のホームページを通して希望する職種や時給を選択しアルバイトの申し込みができます。大学にとっては人件費を抑えられ、学生にとっては職務経験を積めるという双方にメリットのある合理的なシステムでかなりうまく機能しているようでした。



展示スペース

少し専門的な図書館業務について言えば、閲覧、目録などの業務システムは「Voyager」を利用していました。これはアメリカでは一般的なシステムでアメリカ議会図書館でも利用されています。目録は OCLC から流用して作成しており、日本で NII 書誌を流用してローカル書誌を作成するのと似ています。Hamilton Library にはアジアコレクションがあるのですが、それらの資料（日本語・中国語・韓国語）の目録に関しては OCLC ではなく RLIN という別の書誌ユーティリティを利用しています。RLIN には JPMARC や TRCMARC などが含まれており、アジア言語の目録に向いているそうです。ただローカルの業務画面ではまだアルファベット以外の文字表記ができないので近々文字コードを UNICODE に変更したいとのことでした。文字表記の問題は山口大学の中国語資料にも当てはまり親近感を覚えながら話を伺いました。

雑誌の購入タイトル数は約 37,000 誌ですが、

その3分の1近くが電子ジャーナルです。最近、各出版社の電子ジャーナルを横断的に検索できるシステムを開発し、OPAC のようにタイトル、出版社、キーワードなどから電子ジャーナルが検索できるようになったそうです。また電子ジャーナルの他に電子ブックの利用も始まりました。山口大学では現在のところ学内 LAN に接続された端末からしか電子ジャーナルを閲覧できませんが、ハワイ大学では ID・パスワードを入力することにより学外の端末からでも論文の閲覧ができます。

今回訪れた図書館では 56 人の職員と、155 人のアルバイトが働いています。これだけ大きな組織で、また日本よりも個人の専門性の高い職場で、どのように図書館としての一体感を持っているのでしょうか。それにはやはり、月に数回あるミーティング、メールでの緊密な連絡など職員同士のコミュニケーションが大切だと多くの方が答えられました。研修で最も印象に残ったことの一つです。

今回の研修を機にハワイ大学図書館と山口大学附属図書館の間に絆が生まれ、今後この関係が発展していくことを願いつつ報告を終わらせていただきます。

（工学部分館情報管理係 きごし・みち）

ハワイ大学図書館ホームページ

<http://libweb.hawaii.edu/uhtmlib/index.htm>



Hamilton Library